

2010年10月発行 Vol.10

アニモ 風信帖

株式会社 アニモ出版

〒162-0832 東京都新宿区岩戸町 12 レベッカビル

TEL 03-5206-8505 / FAX 03-6265-0130

<http://www.animo-pub.co.jp/> (web site) <http://animopub.exblog.jp/> (blog)

～ 編集雑感 ～

もう25年以上も前の話です。漢字の本をつくったときに、「難読駅名」という項があって、校正の最終段階でそのときの編集長が自分の通勤に使っている総武線（東京・千葉を走る路線）の「錦糸町（きんしちょう）」駅のほうが読み方がむずかしいからと、ある駅名と差し替える赤字（ゲラ＝校正刷りへの直し）を入れました。

当時は、活版といって、印刷所の職人さんが1字1字、鉛の活字を棚から拾い出して頁ごとの木枠にはめ込んでいくという作業（植字＝ここから誤植という言葉が生まれました）で版をつくっていたのですが、どういうわけか「綿糸町（めんしちょう）」というふうに植字してきて、しかもそのチェックの段階でわたしが見落とししたため、そのまま本になってしまいました（^_^;）

発行後、それはそれはたくさんの問い合わせや抗議の電話を受けたし、飲み会の席では、「おい、めんしちょう！」なんて呼ばれたりして...(>_<)

ふつう、編集担当者は、原稿をもらってから校正を終えるまで計4、5回は同じものを読みます。もちろん著者も1、2回校正しますし、担当者以外の編集も（出版社によってはプロの校正者も）校正します。それでも、不思議なもので読むたびに、誤植（最近では変換ミス）などによる誤りがあるものなんです。何回も校正していると、だんだん読み飛ばしがちですが、後で校正するときほどゆっくり1字1字丁寧に読んでいくこと、これがまず基本。そして、できるだけネットで調べるのではなく辞書を引くこと、これも大切です。

また、弊社で発行している実務書・実用書では、内容にミスがあってはなりません。内容のミスは、読者から書店さんに抗議がいくこともあり、特に注意を要します。計算式などは必ず検算するし、法令に準拠したものは原典をあたる、そして何よりも著者の原稿を鵜呑みにしないで、疑問に思うこと。その疑問点を著者に確認して解決すること...を忘れてはなりません。なにしろ編集者は、いわばその本の第一番目の読者なので、編集者のわからないことは読者もわからない、と肝に銘じて校正する必要があるわけです。

（編集部・Y）

【帳合】ト一ハン・日販・大阪屋・栗田・大洋社・明文図書

【営業担当】吉溪（よしたに）・吉川（よしかわ）

<以下の方々にも営業を委託しております>

関東地区ほか：白川 秀也 / 関西地区：水守 一郎(MITブックサービス) /

関西地区・中国・四国：山下 啓(関西パブリケーションエージェンシー)

裏面・12月新刊案内

アニモ出版スタッフブログを始めました
<http://animopub.exblog.jp/>





図解でわかる すぐに役立つ 『生産管理の基本としくみ』

ISBN978-4-89795-117-1

発売日: **12月13日搬入予定**

中小企業診断士 たじま さとる 田島 悟 著

予価: ¥1,500(本体)+税

体裁: A5 判並製・176 ページ

～ 製造業にとって不可欠な仕事を図解で解説！

生産管理とは、“要求される品質の製品”を、“要求される時期”に、“要求量だけ”、“効率的に生産する”ためにコントロールすること。ものづくりの現場においては、今も昔も欠かすことができない仕事です。

本書では、その内容を、予備知識ゼロの新入社員にも理解でき、仕事に役立てられるように解説。基礎の基礎から今日的な動きまで、図解でやさしく紹介していきます。

- 1章 なぜ生産管理が必要とされるのか
- 2章 生産管理の基礎知識と用語
- 3章 生産計画と生産統制
- 4章 品質管理

- 5章 資材・購買管理、外注管理、在庫管理、設備管理
- 6章 改善の各種手法
- 7章 生産管理の代表的な手法

会社を強くする

『キャッシュフローと損益分岐点の見方・活かし方』

ISBN978-4-89795-118-8

発売日: **12月13日搬入予定**

経営コンサルタント ほんま たつや 本間 建也 著

予価: ¥1,800(本体)+税

体裁: A5 判並製・240 ページ

～ 「売上 + 資金収支」の利益戦略がなければ生き残れない！

数ある経営分析手法のなかでも「損益分岐点」は、売上高と費用だけから利益のあるなしを見通せる、非常にシンプルでわかりやすい指標です。しかし、「売上を伸ばせば利益が増える」という考え方はいまの時代には通用しません。売上が増えたからといって、お金も増えるわけではないからです。

本書は、損益分岐点にキャッシュフロー（資金収支）を合体させることにより、本当の意味での採算計算を実践的に解説する本。「損益分岐点」本でベストセラーを著わした著者が新しい視点から、いまの時代にマッチした利益戦略の立て方を指南する、経営者、経理・財務の部課長・担当者必読の本です！

※なお、タイトル、価格等は予告なく変更することがあります。ご了承ください。